

《七夕コンサート》

佐保会館 2 階ホール、七夕の笹飾りに迎えられ、93 名の参加者を得て、コンサートが始まりました。「ヘルマンハーブ」という楽器を見るのも音色を聴くのも初めてという参加者がほとんどでした。

第 1 部では、まず、ビデオ上映による「ヘルマンハーブ」の紹介がありました。

続いて、ヘルマンハーブ同好会・シュトラセフレンズの 8 名の皆さんによるアンサンブル演奏が行われ、ブラームスの子守歌やグリーンズリーブスなど聞き慣れた曲目もあり、やさしい音色に癒やされました。

第 2 部は梶原氏によるソロ演奏と、ヘルマンハーブとの出会いや日本での普及、奏法指導書の発刊など、丁寧にお話いただきました。

ヘルマンハーブを演奏するには、弦とハーブの表板の間に専用の楽譜を差し込み、そこに描かれた音符に沿って弦をはじくという奏法で、五線譜の楽譜が読めなくても演奏が出来るのが特徴です。

ソロで演奏された 5 曲のうち、蘇州夜曲、アメージンググレースは梶原氏の美しく透明感のある高音の歌声の弾き語りを聴かせていただきました。梅雨空の雲が切れ、真っ青な空がのぞいたかのような演奏でした。

だれもが主体的に演奏に関わることができるというバリアフリー性と、美しい音色を奏でる芸術性が、バランスよく保たれて世の中で広まることを願って活動を続けておられます。舞台の上ではなく聴衆と同じフロアで演奏されたことも、バリアフリーな楽器であることの表現なのかもしれません。

演奏会終了後も多くの方が「ヘルマンハーブ」の弦を実際にはじかせていただいたり、直接お話を伺うなど、大きな人垣ができました。

透明感のある美しい音色、ゆったりとした安らぎの演奏、今回の七夕コンサートは、心がほぐれ、優しい気持ちになれそうなコンサートであったように思います。

M.N.